

研究指導

科目名・単位数	論文指導 I (会計学) 2単位	科目分類	研究指導
配当年次	1年次・春学期	担当教員	古市 松井
履修形態	選択		
授業概要	<p>財務会計をテーマとする修士論文作成を前提とした研究指導を行う。財務会計論のなかから受講生各自が設定するテーマについて、各自の問題意識やアプローチに基づいて文献を収集し、論点を整理し、研究報告を行う。このプロセスを繰り返し行うことを通して、修士論文を作成し、完成させる。</p>		
到達目標	修士論文の完成		
授業方法	受講生各自が設定したテーマについて、その内容の報告を行い、討議を行う。		
事前・事後学習	資料収集、論点整理、論文作成、指導結果の反映		
成績評価の方法	報告の準備、討議における発言内容、論文作成の過程における作成への姿勢、論文の内容（論旨の明快さ、内容の独自性、文献収集等）等を総合的に評価する。		
フィードバックの方法	毎回の論文指導において質疑応答		
履修上の注意	特になし		
授 業 計 画			
第1回	<p>論文作成の準備（1）                  ※①論文作成分野の論点整理、②論文の書き方の指導、③論文テーマの設定、                  ④参考文献の検索と収集（以下、同じ）                  （予習：課題の作成 120分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120分）</p>		
第2回	修士論文講習会		
第3回	<p>論文作成の準備（2）                  （予習：課題の作成 120分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120分）</p>		

第 4 回	論文作成の準備（3） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 5 回	論文作成の準備（4） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 6 回	論文作成の準備（5） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 7 回	論文作成の準備（6） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 8 回	論文作成の準備（7） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 9 回	論文作成の準備（8） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 10 回	論文作成の準備（9） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 11 回	論文作成の準備（10） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 12 回	論文作成の準備（11） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 13 回	論文作成の準備（12） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 14 回	論文作成の準備（13） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 15 回	論文作成の準備（14） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
テ キ ス ト	テキストは特にないが、適宜、資料を配布する。
参 考 図 書	適宜、紹介する。

研究指導

科目名・単位数	論文指導Ⅱ（会計学） 2単位	科目分類	研究指導
配当年次	1年次・秋学期	担当教員	古市 松井
履修形態	選択		
授業概要	<p>財務会計をテーマとする修士論文作成を前提とした研究指導を行う。財務会計論のなかから受講生各自が設定するテーマについて、各自の問題意識やアプローチに基づいて文献を収集し、論点を整理し、研究報告を行う。このプロセスを繰り返し行うことを通して、修士論文を作成し、完成させる。</p>		
到達目標	修士論文の完成		
授業方法	受講生各自が設定したテーマについて、その内容の報告を行い、討議を行う。		
事前・事後学習	資料収集、論点整理、論文作成、指導結果の反映		
成績評価の方法	報告の準備、討議における発言内容、論文作成の過程における作成への姿勢、論文の内容（論旨の明快さ、内容の独自性、文献収集等）等を総合的に評価する。		
フィードバックの方法	毎回の論文指導において質疑応答		
履修上の注意	特になし		
授 業 計 画			
第1回	<p>論文作成の準備（1）                  ※①論文作成分野の論点整理、②論文の書き方の指導、③論文テーマの設定、                  ④参考文献の検索と収集（以下、同じ）                  （予習：課題の作成 120分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120分）</p>		
第2回	<p>論文作成の準備（2）                  （予習：課題の作成 120分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120分）</p>		
第3回	<p>論文作成の準備（3）                  （予習：課題の作成 120分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120分）</p>		

第 4 回	論文作成の準備（４） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 5 回	論文作成の準備（５） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 6 回	論文作成の準備（６） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 7 回	論文作成の準備（７） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 8 回	論文作成の準備（８） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 9 回	論文作成の準備（９） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 10 回	論文作成の準備（１０） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 11 回	論文作成の準備（１１） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 12 回	論文作成の準備（１２） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 13 回	論文作成の準備（１３） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 14 回	論文作成の準備（１４） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 15 回	論文作成の準備（１５） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
テ キ ス ト	テキストは特にないが、適宜、資料を配布する。
参 考 図 書	適宜、紹介する。

研究指導

科目名・単位数	論文指導Ⅲ（会計学） 2単位	科目分類	研究指導
配当年次	1・2年次・春学期	担当教員	古市 松井
履修形態	選択		
授業概要	<p>財務会計をテーマとする修士論文作成を前提とした研究指導を行う。財務会計論のなかから受講生各自が設定するテーマについて、各自の問題意識やアプローチに基づいて文献を収集し、論点を整理し、研究報告を行う。このプロセスを繰り返し行うことを通して、修士論文を作成し、完成させる。</p>		
到達目標	修士論文の完成		
授業方法	受講生各自が設定したテーマについて、その内容の報告を行い、討議を行う。		
事前・事後学習	資料収集、論点整理、論文作成、指導結果の反映		
成績評価の方法	報告の準備、討議における発言内容、論文作成の過程における作成への姿勢、論文の内容（論旨の明快さ、内容の独自性、文献収集等）等を総合的に評価する。		
フィードバックの方法	毎回の論文指導において質疑応答		
履修上の注意	特になし		
授 業 計 画			
第1回	<p>論文作成の準備（1）                  ※①論文作成分野の論点整理、②論文の書き方の指導、③論文テーマの設定、                  ④参考文献の検索と収集（以下、同じ）                  （予習：課題の作成 120分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120分）</p>		
第2回	<p>論文作成の準備（2）                  （予習：課題の作成 120分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120分）</p>		
第3回	<p>論文作成の準備（3）                  （予習：課題の作成 120分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120分）</p>		

第 4 回	論文作成の準備（４） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 5 回	論文作成の準備（５） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 6 回	論文作成の準備（６） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 7 回	論文作成の準備（７） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 8 回	論文作成の準備（８） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 9 回	論文作成の準備（９） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 10 回	論文作成の準備（１０） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 11 回	論文作成の準備（１１） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 12 回	論文作成の準備（１２） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 13 回	論文作成の準備（１３） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 14 回	論文作成の準備（１４） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
第 15 回	論文作成の準備（１５） （予習：課題の作成 120 分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120 分）
テ キ ス ト	テキストは特にないが、適宜、資料を配布する。
参 考 図 書	適宜、紹介する。

研究指導

科目名・単位数	論文指導Ⅳ（会計学） 2単位	科目分類	研究指導
配当年次	1・2年次・秋学期	担当教員	古市 松井
履修形態	選択		
授業概要	<p>財務会計をテーマとする修士論文作成を前提とした研究指導を行う。財務会計論のなかから受講生各自が設定するテーマについて、各自の問題意識やアプローチに基づいて文献を収集し、論点を整理し、研究報告を行う。このプロセスを繰り返し行うことを通して、修士論文を作成し、完成させる。</p>		
到達目標	修士論文の完成		
授業方法	受講生各自が設定したテーマについて、その内容の報告を行い、討議を行う。		
事前・事後学習	資料収集、論点整理、論文作成、指導結果の反映		
成績評価の方法	報告の準備、討議における発言内容、論文作成の過程における作成への姿勢、論文の内容（論旨の明快さ、内容の独自性、文献収集等）等を総合的に評価する。		
フィードバックの方法	毎回の論文指導において質疑応答		
履修上の注意	特になし		
授 業 計 画			
第1回	<p>論文作成の準備（1）            ※①論文作成分野の論点整理、②論文の書き方の指導、③論文テーマの設定、            ④参考文献の検索と収集（以下、同じ）            （予習：課題の作成 120分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120分）</p>		
第2回	<p>論文作成の準備（2）            （予習：課題の作成 120分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120分）</p>		
第3回	<p>論文作成の準備（3）            （予習：課題の作成 120分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120分）</p>		

第4回	論文作成の準備（4） （予習：課題の作成 120分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120分）
第5回	論文作成の準備（5） （予習：課題の作成 120分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120分）
第6回	論文作成の準備（6） （予習：課題の作成 120分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120分）
第7回	論文作成の準備（7） （予習：課題の作成 120分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120分）
第8回	論文作成の準備（8） （予習：課題の作成 120分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120分）
第9回	論文作成の準備（9） （予習：課題の作成 120分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120分）
第10回	論文作成の準備（10） （予習：課題の作成 120分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120分）
第11回	論文作成の準備（11） （予習：課題の作成 120分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120分）
第12回	論文作成の準備（12） （予習：課題の作成 120分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120分）
第13回	論文作成の準備（13） （予習：課題の作成 120分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120分）
第14回	論文作成の準備（14） （予習：課題の作成 120分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120分）
第15回	論文作成の準備（15） （予習：課題の作成 120分 復習：提出課題への指導のフィードバック 120分）
テキスト	テキストは特にないが、適宜、資料を配布する。
参考図書	適宜、紹介する。

研究指導

科目名・単位数	論文指導 I (税法) 2単位	科目分類	研究指導
配当年次	1年次・春学期	担当教員	浅井 鳥居 上松 石黒 川根 坂本 沼田 平野 廣木
履修形態	選択		
授業概要	<p>「論文指導」科目は、税法の修士論文作成者に対して税法論文を完成するのに必要な指導を行う。本研究科の院生が税法論文を作成するのは国税庁に提出し、税理士試験の税法2科目免除を得ることが主たる目的であることから、本研究科卒業の為だけでなく、免除を得るための質の高い論文の完成を目指す。</p> <p>論文指導（I～IV）は原則として履修生ごとに個別の論文指導により行うこととするが、1年次においては合同での指導授業形式を採ることもある。</p>		
到達目標	<p>「論文指導 I」では、論文作成の準備段階として研究テーマの決定、資料収集を行うと共に、問題の所在把握などテーマの内容に係る研究を行う。</p>		
授業方法	<p>科目のガイダンスを行う第1回を除き、教員とその指導を受ける履修生が1対1の個別で又は合同での論文指導を行う形式をとる。</p>		
事前・事後学習	<p>疑問点があれば、授業外であってもメール等で質問するよう指導する。</p>		
成績評価の方法	<p>論文作成への積極性、自主性、進捗などを総合勘案して評価する。</p>		
フィードバックの方法	<p>メールのあった都度、速やかに回答を行う。</p>		
履修上の注意	<p>他の租税法系科目（特に基礎を学ぶ「租税法総論」、論文テーマに係る税法科目など）をできる限り受講しておくこと。</p>		
授 業 計 画			
第1回	<p>(ガイダンス) 論文作成の進め方、今後のスケジュール等について解説する。</p>		
第2回	<p>修士論文講習会</p>		
第3回	<p>(研究テーマの決定と資料収集) 研究課題を決定すると共に、関係資料を収集・整備する。</p>		

第 4 回	(研究テーマの決定と資料収集) 研究課題を決定すると共に、関係資料を収集・整備する。
第 5 回	(テーマに関する研究) 研究テーマを巡る先行研究の抽出、諸学説の検討、問題点の把握など研究内容に関する理解を深める。
第 6 回	(テーマに関する研究) 研究テーマを巡る先行研究の抽出、諸学説の検討、問題点の把握など研究内容に関する理解を深める。
第 7 回	(テーマに関する研究) 研究テーマを巡る先行研究の抽出、諸学説の検討、問題点の把握など研究内容に関する理解を深める。
第 8 回	(テーマに関する研究) 研究テーマを巡る先行研究の抽出、諸学説の検討、問題点の把握など研究内容に関する理解を深める。
第 9 回	(テーマに関する研究) 研究テーマを巡る先行研究の抽出、諸学説の検討、問題点の把握など研究内容に関する理解を深める。
第 10 回	(テーマに関する研究) 研究テーマを巡る先行研究の抽出、諸学説の検討、問題点の把握など研究内容に関する理解を深める。
第 11 回	(テーマに関する研究) 研究テーマを巡る先行研究の抽出、諸学説の検討、問題点の把握など研究内容に関する理解を深める。
第 12 回	(テーマに関する研究) 研究テーマを巡る先行研究の抽出、諸学説の検討、問題点の把握など研究内容に関する理解を深める。
第 13 回	(テーマに関する研究) 研究テーマを巡る先行研究の抽出、諸学説の検討、問題点の把握など研究内容に関する理解を深める。
第 14 回	(テーマに関する研究) 研究テーマを巡る先行研究の抽出、諸学説の検討、問題点の把握など研究内容に関する理解を深める。
第 15 回	(テーマに関する研究) 研究テーマを巡る先行研究の抽出、諸学説の検討、問題点の把握など研究内容に関する理解を深める。
テ キ ス ト	特になし。
参 考 図 書	開講時に指示する。

科目名・単位数	論文指導Ⅱ（税法） 2単位	科目分類	研究指導
配当年次	1年次・秋学期	担当教員	浅井 鳥居 上松 石黒 川根
履修形態	選択		坂本 沼田 平野 廣木
授業概要	<p>「論文指導」科目は、税法の修士論文作成者に対して税法論文を完成するのに必要な指導を行う。本研究科の院生が税法論文を作成するのは国税庁に提出し、税理士試験の税法2科目免除を得ることが主たる目的であることから、本研究科卒業の為だけでなく、免除を得るための質の高い論文の完成を目指す。</p> <p>論文指導4科目（Ⅰ～Ⅳ）は、原則として履修生ごとに個別の論文指導により行うこととするが、1年次においては合同での指導授業形式を採ることもある。</p>		
到達目標	「論文指導Ⅱ」では、具体的な論文の執筆作業に着手し、論文の前半部分を書き上げる。		
授業方法	教員とその指導を受ける履修生が1対1の個別で又は合同での論文指導を行う形式をとる。		
事前・事後学習	授業前に論文を作成させ、それをメール等で送信させるか授業で提出させる。		
成績評価の方法	論文内容の評価（論理性、明確性、立証性）及び論文作成への積極性、自主性、進捗などを総合勘案して評価する。		
フィードバックの方法	提出された作成中の論文は、授業内かその都度メール等で添削指導する。		
履修上の注意	他の租税法系科目（特に基礎を学ぶ「租税法総論」、論文テーマに係る税法科目など）をできる限り受講しておくこと。		
授 業 計 画			
第1回	<p>（論文作成—A）</p> <p>論文の書き方から始め、文章構成、論理展開、表現方法等を学びつつ、併せて問題発掘の都度、分析・検討を行って、論文内容の研究を深めていく。</p>		
第2回	<p>（論文作成—A）</p> <p>論文の書き方から始め、文章構成、論理展開、表現方法等を学びつつ、併せて問題発掘の都度、分析・検討を行って、論文内容の研究を深めていく。</p>		
第3回	<p>（論文作成—A）</p> <p>論文の書き方から始め、文章構成、論理展開、表現方法等を学びつつ、併せて問題発掘の都度、分析・検討を行って、論文内容の研究を深めていく。</p>		

第 4 回	(論文作成—A) 論文の書き方から始め、文章構成、論理展開、表現方法等を学びつつ、併せて問題発掘の都度、分析・検討を行って、論文内容の研究を深めていく。
第 5 回	(論文作成—A) 論文の書き方から始め、文章構成、論理展開、表現方法等を学びつつ、併せて問題発掘の都度、分析・検討を行って、論文内容の研究を深めていく。
第 6 回	(論文作成—A) 論文の書き方から始め、文章構成、論理展開、表現方法等を学びつつ、併せて問題発掘の都度、分析・検討を行って、論文内容の研究を深めていく。
第 7 回	(論文作成—A) 論文の書き方から始め、文章構成、論理展開、表現方法等を学びつつ、併せて問題発掘の都度、分析・検討を行って、論文内容の研究を深めていく。
第 8 回	(論文作成—A) 論文の書き方から始め、文章構成、論理展開、表現方法等を学びつつ、併せて問題発掘の都度、分析・検討を行って、論文内容の研究を深めていく。
第 9 回	(論文作成—A) 論文の書き方から始め、文章構成、論理展開、表現方法等を学びつつ、併せて問題発掘の都度、分析・検討を行って、論文内容の研究を深めていく。
第 10 回	(論文作成—A) 論文の書き方から始め、文章構成、論理展開、表現方法等を学びつつ、併せて問題発掘の都度、分析・検討を行って、論文内容の研究を深めていく。
第 11 回	(論文作成—A) 論文の書き方から始め、文章構成、論理展開、表現方法等を学びつつ、併せて問題発掘の都度、分析・検討を行って、論文内容の研究を深めていく。
第 12 回	(論文作成—A) 論文の書き方から始め、文章構成、論理展開、表現方法等を学びつつ、併せて問題発掘の都度、分析・検討を行って、論文内容の研究を深めていく。
第 13 回	(論文作成—A) 論文の書き方から始め、文章構成、論理展開、表現方法等を学びつつ、併せて問題発掘の都度、分析・検討を行って、論文内容の研究を深めていく。
第 14 回	(論文作成—A) 論文の書き方から始め、文章構成、論理展開、表現方法等を学びつつ、併せて問題発掘の都度、分析・検討を行って、論文内容の研究を深めていく。
第 15 回	(論文作成—A) 論文の書き方から始め、文章構成、論理展開、表現方法等を学びつつ、併せて問題発掘の都度、分析・検討を行って、論文内容の研究を深めていく。
テ キ ス ト	特になし。
参 考 図 書	開講時に指示する。

研究指導

科目名・単位数	論文指導Ⅲ（税法） 2単位	科目分類	研究指導
配当年次	1・2年次・春学期	担当教員	浅井 鳥居 上松 石黒 川田
履修形態	選択		川根 沼田 平野 廣木
授業概要	<p>「論文指導」科目は、税法の修士論文作成者に対して税法論文を完成するのに必要な指導を行う。本研究科の院生が税法論文を作成するのは国税庁に提出し、税理士試験の税法2科目免除を得ることが主たる目的であることから、本研究科卒業の為だけでなく、免除を得るための質の高い論文の完成を目指す。</p> <p>なお、この科目は、論文指導を受ける履修生ごとに指導の内容は異ならざるを得ないこと及び異なる指導の中身の効率化を確保する必要があることから、原則として履修生毎に個別の論文指導により行う。</p>		
到達目標	「論文指導Ⅲ」では、論文作成を進め、期末までには大部分を書き上げる。		
授業方法	教員とその指導を受ける履修生が1対1で個別の論文指導を行う形式をとる。		
事前・事後学習	授業前に論文を作成させ、それをメール等で送信させるか授業で提出させる。		
成績評価の方法	論文内容の評価（論理性、明確性、立証性）及び論文作成への積極性、自主性、進捗などを総合勘案して評価する。		
フィードバックの方法	提出された作成中の論文は、授業内かその都度メール等で添削指導する。		
履修上の注意	他の租税法系科目（特に基礎を学ぶ「租税法総論」、論文テーマに係る税法科目など）をできる限り受講しておくこと。		
授 業 計 画			
第1回	<p>（論文作成—B） 適確に問題の所在を把握し、テーマについて適切な解決策を導き出した研究論文の作成を行っていく。</p>		
第2回	<p>（論文作成—B） 適確に問題の所在を把握し、テーマについて適切な解決策を導き出した研究論文の作成を行っていく。</p>		
第3回	<p>（論文作成—B） 適確に問題の所在を把握し、テーマについて適切な解決策を導き出した研究論文の作成を行っていく。</p>		

第 4 回	(論文作成一B) 適確に問題の所在を把握し、テーマについて適切な解決策を導き出した研究論文の作成を行っていく。
第 5 回	(論文作成一B) 適確に問題の所在を把握し、テーマについて適切な解決策を導き出した研究論文の作成を行っていく。
第 6 回	(論文作成一B) 適確に問題の所在を把握し、テーマについて適切な解決策を導き出した研究論文の作成を行っていく。
第 7 回	(論文作成一B) 適確に問題の所在を把握し、テーマについて適切な解決策を導き出した研究論文の作成を行っていく。
第 8 回	(論文作成一B) 適確に問題の所在を把握し、テーマについて適切な解決策を導き出した研究論文の作成を行っていく。
第 9 回	(論文作成一B) 適確に問題の所在を把握し、テーマについて適切な解決策を導き出した研究論文の作成を行っていく。
第 10 回	(論文作成一B) 適確に問題の所在を把握し、テーマについて適切な解決策を導き出した研究論文の作成を行っていく。
第 11 回	(論文作成一B) 適確に問題の所在を把握し、テーマについて適切な解決策を導き出した研究論文の作成を行っていく。
第 12 回	(論文作成一B) 適確に問題の所在を把握し、テーマについて適切な解決策を導き出した研究論文の作成を行っていく。
第 13 回	(論文作成一B) 適確に問題の所在を把握し、テーマについて適切な解決策を導き出した研究論文の作成を行っていく。
第 14 回	(論文作成一B) 適確に問題の所在を把握し、テーマについて適切な解決策を導き出した研究論文の作成を行っていく。
第 15 回	(論文作成一B) 適確に問題の所在を把握し、テーマについて適切な解決策を導き出した研究論文の作成を行っていく。
テ キ ス ト	特になし。
参 考 図 書	開講時に指示する。

研究指導

科目名・単位数	論文指導Ⅳ（税法） 2単位	科目分類	研究指導
配当年次	1・2年次・秋学期	担当教員	浅井 鳥居 上松 石黒 川田
履修形態	選択		川根 沼田 平野 廣木
授業概要	<p>「論文指導」科目は、税法の修士論文作成者に対して税法論文を完成するのに必要な指導を行う。本研究科の院生が税法論文を作成するのは国税庁に提出し、税理士試験の税法2科目免除を得ることが主たる目的であることから、本研究科卒業の為だけでなく、免除を得るための質の高い論文の完成を目指す。</p> <p>なお、この科目は、論文指導を受ける履修生ごとに指導の内容は異ならざるを得ないこと及び異なる指導の中身の効率化を確保する必要があることから、原則として履修生毎に個別の論文指導により行う。</p>		
到達目標	<p>「論文指導Ⅳ」では、期首までに書き上げられた論文素案の見直しを行い、より充実した修士論文の完成を目指す。</p>		
授業方法	<p>教員とその指導を受ける履修生が1対1で個別の論文指導を行う形式をとる。</p>		
事前・事後学習	<p>授業前に論文を作成させ、それをメール等で送信させるか授業で提出させる。</p>		
成績評価の方法	<p>論文内容の評価（論理性、明確性、立証性）及び論文作成への積極性、自主性、進捗などを総合勘案して評価する。</p>		
フィードバックの方法	<p>提出された作成中の論文は、授業内かその都度メール等で添削指導する。</p>		
履修上の注意	<p>他の租税法系科目（特に基礎を学ぶ「租税法総論」、論文テーマに係る税法科目など）をできる限り受講しておくこと。</p>		
授 業 計 画			
第1回	<p>（最終論文指導） 修士論文の最終チェック（論理展開、論証、文章の完成度、論文としての体裁等を含む）を行う。</p>		
第2回	<p>（最終論文指導） 修士論文の最終チェック（論理展開、論証、文章の完成度、論文としての体裁等を含む）を行う。</p>		
第3回	<p>（最終論文指導） 修士論文の最終チェック（論理展開、論証、文章の完成度、論文としての体裁等を含む）を行う。</p>		

第4回	(最終論文指導) 修士論文の最終チェック(論理展開、論証、文章の完成度、論文としての体裁等を含む)を行う。
第5回	(最終論文指導) 修士論文の最終チェック(論理展開、論証、文章の完成度、論文としての体裁等を含む)を行う。
第6回	(最終論文指導) 修士論文の最終チェック(論理展開、論証、文章の完成度、論文としての体裁等を含む)を行う。
第7回	(最終論文指導) 修士論文の最終チェック(論理展開、論証、文章の完成度、論文としての体裁等を含む)を行う。
第8回	(最終論文指導) 修士論文の最終チェック(論理展開、論証、文章の完成度、論文としての体裁等を含む)を行う。
第9回	(最終論文指導) 修士論文の最終チェック(論理展開、論証、文章の完成度、論文としての体裁等を含む)を行う。
第10回	(最終論文指導) 修士論文の最終チェック(論理展開、論証、文章の完成度、論文としての体裁等を含む)を行う。
第11回	(最終論文指導) 修士論文の最終チェック(論理展開、論証、文章の完成度、論文としての体裁等を含む)を行う。
第12回	(最終論文指導) 修士論文の最終チェック(論理展開、論証、文章の完成度、論文としての体裁等を含む)を行う。
第13回	(最終論文指導) 修士論文の最終チェック(論理展開、論証、文章の完成度、論文としての体裁等を含む)を行う。
第14回	(最終論文指導) 修士論文の最終チェック(論理展開、論証、文章の完成度、論文としての体裁等を含む)を行う。
第15回	(最終論文指導) 修士論文の最終チェック(論理展開、論証、文章の完成度、論文としての体裁等を含む)を行う。
テキスト	特になし。
参考図書	開講時に指示する。